

講演「東日本大震災に学ぶ今後の地震対策」

講師 名古屋大学大学院教授 福和 伸夫 氏

皆さん、こんにちは。佐々木様からもう被災地のお話を随分しっかりとお聞きしましたので、ちょっと重複してしまうこともあるかも知れませんが、これからの東海・東南海・南海地震の問題を頭に置きながら、被災地からの学び取りをしていきたいと思います。

- スライド映写 -

この絵は、今から 150 数年前に描かれた絵でございます。先ほど佐々木様の動画の中にこれとそっくりな映像がたくさんございました。こんな絵が実は 150 年前に描かれています。この絵は、ロシアからプチャーチン提督を乗せてやって来ていたディアナ号、そこに乗っていたモジャエスキーさんが安政の東海地震の様子を描いた絵でございます。

我々はこういった絵を何度も見ていたんですが、この絵の意味することが全然分かっておりませんでした。先ほどの佐々木様の映像の中で分かりますように、これは堤防を越えて海の水が陸の中に落ちて来ている映像であります。この地震は、私たちこれから確実に経験する地震であります。

実はこの地震で三重よりも東の地域が壊滅的にやられます。それが 1854 年 12 月 23 日でございます。翌 24 日、今度は紀伊半島から四国にかけて同じような地震に見舞われました。それが安政の南海地震でございます。

その時の様子が小学校の教科書に描かれていたのが「稲むらの火」というような物語でありますし、この翌日の地震で大阪は津波で壊滅をしております。実は、この 2 日後にもう一つ、宮崎県沖で地震が起きてきています。今、心配されている東海・東南海・南海地震では、その 3 つの地震が全部一緒に起きてしまうかも知れない。ひょっとしたらそれよりも大きいかも知れないという地震です。

この地震の時に、被災地の外側だったのが薩摩と長州です。この翌年、さらに安政江戸地震というのが起きて、江戸が壊滅します。尊王攘夷派の旗頭であった水戸藩、これは非常に地盤の良くないところでしたから、安政の江戸地震で倒壊をし、藤田東湖が命を落とします。尊王攘夷派が力を失っていくきっか

けになりました。

さらにその翌年、1856年、江戸を大変な台風が襲って、どうも10万人ぐらいの人が命を落としたと言われていています。そういう大変な災害が、ペリーがやって来てから日米和親条約が取り交わされる時期に起きていた。ひょっとしたら、江戸から明治に移ったのは、有名な幕末の人物の人たちによる歴史ではなく、ひょっとしたら自然災害による歴史であった可能性があるということでございます。

そして、明治になった後、この地域を襲ったのがこの地震、濃尾地震でございます。濃尾地震は、1891年に私たちの地域を襲いました。東海道線ができたてのホヤホヤの時です。できて2年後ですが、駅や橋が見事に壊れました。岐阜の駅もつぶれている様子が分かります。

これを反省して文部省は「震災予防調査会」という組織を作り、そこで地震学とか耐震工学を学ぶようになりました。これが1891年です。その3年後に日清戦争を始めます。その年、実は山形で大変な大地震があります。庄内地震という地震です。

さらにその2年後に岩手を襲ったのが1896年、三陸の地震津波であります。この地震の様子は、「風俗画報」というところに描き残されていて、こんなに惨めたらしく人々が命を落とした様子が見事に描かれています。この地震では、2万2千人がお亡くなりになりました。今回お亡くなりになったと思われるのは1万9千人です。ですから、今回の災害は未曾有の災害ではございません。この時の日本の人口は4,200万人です。今の3分の1の人口の時に今回よりも多くの犠牲者を出した地震を、私たちはちゃんと学び取っておく必要がございます。

岩手の方々は大変立派で、こういった絵をしっかりと書き残し、津波の恐さを次の世代にきちんと残してくださったおかげで、「津波てんでんこ」という言葉で代表されるような、そういったような人の中にちゃんと残るようなメッセージを残してくれました。そのおかげで、今回の犠牲者は明治三陸地震津波の時の犠牲者の3分の1に留まっております。これは、岩手県民の方々が大変素晴らしい、人に残るメッセージを伝え続けてきたおかげだと思えます。

一方で、お隣の宮城県では、残念ですが、今回の犠牲者は明治の3倍になり

ました。これは多分県民の中における津波意識の差がそうさせたんだと考えられます。残念ながら、私たち、津波に襲われやすい場所に町を広げてしまいました。その広げてしまったところがやられてしまったということで、要は、今日申し上げなくてはいけないことは、かつてからのさまざまなメッセージを私たちがちゃんとそれを受け取りながら、自然とある程度折り合いを付けながら生きていかないと、これから大変なことになりそうだということでございます。

今からご覧いただきますのは、地震発生直後の様子でございます。仙台ではこんな様子になっておりました。

- 上映開始 -

すでに地震が発生しております。地震が発生しておりますが、まだ仙台には揺れが到達しておりません。東北大学の先生が、今こんな形で研究発表会でお話になっている最中でございます。そろそろ地震発生から 30 秒ぐらいが経ちます。そうすると、こんな音がいたします。この音が緊急地震速報であります。皆さんも、今ひょっとしたらこんな音がするかも知れませんが、そんな音がした時にどんな行動ができるかということが問われています。今、P波、縦波が伝わってきました。シャンデリアが上下に動きます。そしてここで横揺れ、S波が到達いたします。そうすると、この会場はこんな具合になってしまいました。

見ていて分かることではありますが、人間の力が足りないということが分かります。せっかく緊急地震速報という素晴らしい武器を持っているのに、残念ながらそれに呼応した行動が取れていないという様子が分かります。それは国会議事堂でもそうでありました。

こんな形できっちりと緊急地震速報が出ております。ですが、残念ながら、国会議事堂には緊急地震速報の情報が入っておりません。ですから、誰も行動をしなかったんです。

岩手県議会では、その時、どうでしたでしょうか。ピーピーと鳴りましたよね。鳴った時に、皆さん、机の下に潜られましたか。潜らないんです、多分。ダメなんです、実は。「先生」と呼ばれる人は、僕も含めてなんですが、意外とダメなんです。

こんなに私たちの国は、残念ながら対策ができていませんでした。見ていただくと、彼女と彼はおかしいと気が付いています。若い人は早くに揺れに気が

付き始めました。お年を召している方は鈍感であったということもこれで分かります。

皆が上を向いています。どうして上を向いているかというと、先ほどと同じようにシャンデリアがこれからガンガンと揺れ始めるからです。私はまだ三重県の議会に行ったことがないので分かりませんが、もしも上がシャンデリアだったとしたら、必ず留めておいていただくことをお薦めしたいと思います。

次は九段会館の様子です。九段会館の天井が落ちました。皆様の議事堂の天井が落ちないかどうか、それはぜひチェックをしていただきたいと思います。

そして、これは横浜です。震源から遠く離れた横浜で、ビルから壁が落ちてきました。そして、横浜球場の隣にあるビルはこんなに揺れてしまいました。震源から数百キロも離れていてこうなんです。三重県の場合は、次なる地震はこの下で起きます。こんな甘い揺れではないということでもあります。

どうして今のような揺れになったか、それは造っちゃいけない場所に建物を造ったからだということだと思われまます。これは、1923年、関東地震の時に横浜の揺れと東京の揺れです。ここだけがものすごい揺れで、建物の全壊率が8割を超えています。これは関内です。先ほどの映像はいずれもこの関内の映像です。先ほど九段下があんなに天井が落ちました。この絵の中のこの場所が九段下です。そこだけが震度7なんです。どうしてかと言うと、そこはかつての池だった場所を埋め立てたからです。これが横浜の埋め立ての様子、これがかつて太田道灌が江戸を創った時点での入り江の様子です。もう明らかにどこに物を造るかということを決まっているわけでありまます。そういったことを忘れて、私たちは町をどんどん広げてしまい、池を埋め、田んぼを埋めてしまいました。そのことがこれからの災害を生み出すということになります。

新宿ではこんな揺れ方になりました。今回の揺れは長周期の揺れはあまり出ませんでしたから、この程度で済みまます。本番はこの揺れの3倍ぐらいになるだろうと想像してまます。3倍ぐらいであれば、建物は壊れないと思いまます。揺れの恐怖で二度と上がりたいたと思わないだろうと思いまます。

実は、大阪にある咲洲庁舎、大阪府咲洲庁舎は、この揺れの5倍揺れまます。大阪ははるかに離れているのに、これの5倍揺れまます。だから、ひょっとすると何も対策を打たなければ次の震災がくれば、本当に壊れてしまいう可能性が

あります。そうすると、府の職員1万人が命を落としてしまう可能性だって否定ができないという状況にあります。

実は、私たちの国にはそんなものがいっぱい残っています。高層ビルの中、TBSの17階です。残念ながら、まだまだ私たちの国はこの程度の対策しかできていない。何もやれていないということでございます。

これは、新宿の東京都庁舎です。今の音は都庁舎のエレベーターの籠がぶつかり合う音であります。高層ビルの庁舎は作るべきではないと思います。

これは浦安であります。液状化の様子を見ていただきます。震源から数百キロ離れていても、埋立地では液状化をします。そして、水道が破断し、建物は傾きました。傾いた建物を直しに行く人はいません。みんな岩手や宮城に行くので精一杯ですから、家が傾いているだけの人たちは見捨てざるを得なかったということに…。

これは先ほど佐々木様がお見せになっていた映像と同じ映像ですが、別の角度から撮ったものです。ちょっとご覧ください。これを見ていただくと、津波の様子がお分かりいただけるかと思いますが、津波の恐さというのはどんな恐さなのかであります。先ほどの佐々木様の映像でもそうでしたが、こんなふうに建物の中を一気に流れていくということです。この様子を見て、本当に沿岸部に建物を造ることがいいことなのかどうか。これは、これから必ず災害を経験する私たちにとっては、まだ間に合うので、見直すのであれば見直していくということが必要であるとも感じられます。

それから次は気仙沼の様子でございます。いろいろな物が流されました。流された物の中にこんな物もございました。トレーラーが今流されようとしていますが、その後に流れて来たのは石油タンクであります。四日市も大変な量の石油タンクがございます。気仙沼では殆どのタンクが浮かび上がって流されてしまいました。その結果、こんな津波火災になりました。昔とは違って、沿岸部にこういった危険物がたくさんあることに、我々は気が付く必要がございます。

そして次は、仙台の飛行場の様子をご覧ください。飛行場には、いざという時にすぐに飛び立たなくてはいけないヘリコプターがたくさんございます。ヘリが飛び立たなければ被災地の状況を即座に把握することができません。残念ながら、現代は、飛行場はうるさい施設であるという迷惑施設にしてしまい

ましたから、日本全国、沿岸部あるいは海の中に飛行場を造るようになりました。その結果、最も重要なヘリをすぐに失ってしまいました。

この場所は、被災地以外から救援の手が入る場所、さまざまな救援物資が入る場所でもあります。現代の日本では一番大事な災害時に役立てるべき飛行場が、実は最も危険な場所に造られてしまっているというのが現状でございます。戦前は、米軍からの攻撃を避けて、必ず内陸部に造っていましたが、戦後造った飛行場はすべて沿岸部です。東京の羽田、名古屋のセントレア、大阪の関空、で、そこには石油コンビナート地帯がセットであります。川崎や千葉、四日市、そして堺のコンビナート地帯であります。

私たち、この太平洋岸は三陸とは違って、そういう恐さがいっぱいある中に住んでいるということを忘れないようにしておきたいと思えます。

それから、ダメなのは国会議事堂だけではございません。これはある防災関係の重要な部屋の入り口でございます。日本の最後の砦の部屋でございますが、残念ながら家具の転倒防止はされていません。この扉が開かなければ、これは7階にありますが、7階にいる課長さんは災害時対応が難しくなります。

実は、私たちの国は、他の防災機関も含め、実はあまり状況が変わってきておりません。つい先日までは、三重県の防災危機管理部の部屋も同じような状況でありましたが、去年、一昨年とガミガミ、と申し上げてきましたので、今はきっちりとされております。議会事務局がどうなっているかは、僕はまだチェックしていませんので分かりません。

それから、三重県の各市町にはよく伺いますが、全然できていない市町がたくさんあるということも事実でございます。まずすべきことは、市民に対してやってくださいと言う前に、市町村役場内の対策ができていることを確認し、職員が率先市民になることが必要とされております。

それから、岩手県の全体の被害、岩手、宮城、福島の全体の被害を比べてみたいと思えます。明治と比べて被害は実は少ないです。明治よりも人口は3倍多いんです。岩手に関しては明治と比べて今、人口は2倍になりました。人口が2倍になっても、犠牲者が3分の1になったということは、実際には岩手の方々は本当に頑張っていて、明治の時と比べると6分の1から7分の1ぐらいに被害を抑えたんだということです。一方で、宮城は3倍に被害が増えてしまいま

した。

地震の強さは、神戸の地震と比べると 1,000 倍の強さです。ですが、見てみますと、犠牲者の方々の数はあまり変わらないんです。怪我をされた数を加えると、今回よりも兵庫県南部地震の方が倍多いんです。壊れた建物も、津波で流された建物、揺れで壊れた建物ですが、両方とも 10 万ちょっとということで変わらないんです。

どうして敵が 1,000 倍も強いのに被害が変わらないのか。それは極めて単純であります。兵庫県の人口は 560 万人、東北三県の人口を全部合わせても 560 万人なんです。ですから、いくら敵が強くて、そこに住んでいる方の数が変わらなければ被害は変わらないという、ただそれだけのことのようにも感じられます。

一方で、今世紀前半に必ず来ると言われている地震、首都直下型地震。東京と神奈川だけで 2 千万人を超えています。埼玉と千葉を入れると 4 千万人になります。ということは、今回の災害の 10 倍ぐらいの災害になる可能性があるということです。

我々の地震、東海・東南海・南海地震はそこに 4 ~ 5 千万人の人が住んでいます。ですから、東日本大震災の 10 倍の被害を覚悟し、それでも大丈夫なように私たちの町を作り変えていくしかないということになります。

それから、「想定外」という言葉がよく聞かれます。でも、多分そうではないはず。西暦 869 年に貞観時代に貞観の地震が起きたということが「日本三大実録」という日本の国史に書かれていて、仙台郊外の多賀城で 1,000 人の人が津波でお亡くなりになったということが書き残されています。「小倉百人一首」の中には、この多賀城の 2 つの地名、「末の松山」と「沖の石」を詠んだ和歌が 2 首あります。一つは「契りきな かたみに袖をしばりつつ 末の松山 波越さじとは」、もう 1 首は、「わが袖は 潮干に見えぬ 沖の石の 人こそしらぬ かわく間もなし」、恋の歌になぜあえて多賀城の地名を残し、そしてそこに津波をほうふつとさせるような和歌を詠んだのか。何だか変なので現地に行ってみました。これが沖の石で、これが末の松山です。行ってみると、今回津波が見事にここまで来ていました。とすると、私たちは過去からのメッセージを聞き取ろうとすればちゃんと分かっていたことかも知れないということにもな

ります。

今、各市町で最も重要なことは、それぞれの市町で過去に経験したことを掘り起こすという作業のように感じます。そして、この貞観の時代、どんなことが起きたかであります。今の貞観の地震の8年前、直方に隕石が落ちました。昨年、そう言えばふたご座流星群が落ちて来ました。翌年、新羅から海賊がやって来ました。しばらく前にそう言えば朝鮮からテポドンが落ちてまいりました。翌年、越中越後の地震が起きました。そう言えば、中越地震や中越沖地震が起きました。富士山が噴火しました。3・11のあと、富士宮で地震が起きました。それは富士山のマグマ溜まりの直上でございます。これからどういうことが起きるかはよく分からない状況にあります。阿蘇山は現在、噴火前のレベル2の状況でございます。桜島も非常に今心配されています。疫病がまん延しました。そう言えば、最近、鳥インフルエンザとか新型インフルエンザという言葉をよく聞きます。播磨山城で地震が起きました。そう言えば兵庫県南部地震が起きました。貞観の地震が起きました。今回の地震とよく似ています。そんなに混乱していたので「応天門の変」という変も起き、そして何とかこれを治めようとしたのが祇園での御霊会、それが祇園祭りの発祥となりました。その2年後、鳥海山が噴火しました。先々週、山形へ行きましたが、現地の方々はこのことをとても心配されていました。そして開聞岳も噴火しました。去年の1月26日、近くの新燃岳が噴火しました。その直後、関東で大地震が起きます。首都直下地震が今とても心配されています。鳥取県西部地震がこの場所で私たちの時代も起きています。そして、今心配されているのが千葉沖の地震。それからもう一つが私たちの東海・東南海・南海地震で、まさしくそれが18年後に起きているということでございます。

当時の地震が起きた場所に、そして現代、地震が起きてきた場所を見てみると、これはいかがわしい歴史観かも知れませんが、どうも変だと感じるわけでございます。そして、1度起きたことは次だって起きるかも知れない。私たちは今回の被災地の方々を精一杯応援するとともに、被災地の方々から必死になって学び取って、我々の目の前にぶら下がっていることを必死になって防がないと、被災地の方々にさらにもう1回迷惑をかけるということになります。この地震が起きたら、この国はもちません。回復できないです。

貞観の地震は人口 600 万人の時に来ました。1,000 人が亡くなったということは 2 万人が亡くなったということであります。この間、私たちの地域では 100 年に 1 回ずつ、東海・東南海・南海地震がやってきています。次回の地震は、私たちの国の人口分布がこんな分布になる時にやってきます。もうこんな人口分布では、私たちの国は回復できないはずであります。こういう人口分布で 100 兆、200 兆円失って、そして有価証券が本当に紙くず同然になれば、1,500 兆円の貯金の価値はなくなります。借金だけが残ったら、この国は多分まったく無理になります。

そんなことは歴史を振り返ればよく分かります。これが 4 回前の地震、これは 3 回前、これは 2 回前です。4 回前は、戦国時代の最後、秀吉が大阪の築城をした後で天正の大地震がやってきて、朝鮮に出て行って、地震がやって来て朝鮮に出て行って、秀吉が死んで、大喧嘩をして江戸を創って、また地震がやって来て、名古屋を創って、そして大地震がやって来て、大阪夏の陣です。この慶長の三陸地震津波の後にできたのが仙台です。要は、こんなに地震と戦争とが繰り返す中で、東京と大阪と名古屋と仙台がつくられたということです。その次の時代はこんなにいっぱい地震が起きて、元禄時代が終わっていききました。

どうして江戸が終わったかと言うと、1853 年にペリーがやってきた後を見てください。伊賀上野地震が皆さんの地域で起きました。そして安政の東海地震と南海地震が起きて、徳川の譜代大名は力を失います。さらに豊後で地震が起き、そして三陸でも地震が起きているわけであります。そして、江戸直下の地震が起きて水戸藩が潰れるわけです。さらに三陸沖でも地震がやってきて、そして江戸直下で地震が起きます。さらに広島でも、そして飛騨でも地震が起きる。だから安政の大獄へと続いていったんだという歴史観を私たちはちゃんと持つべきだと感じています。

その時代につくられた、最初につくられた大阪は、地震が起きる前だったので、とんでもない湿地帯に町をつくりました。これはとっても危険な町で、1854 年の安政南海地震でも津波で壊滅をしています。その後につくった東京は、西半分に家臣を住ませ、東の軟弱地盤に大名を住ませました。東はズボズボ、西側はとっても盤石というところを創りました。これは江戸の大名たちの力を疲

弊させるための戦略でもあります。ですが、今の日本の最も重要なビジネス街は、このとっても危険なところにつくってしまいました。これは今の日本の最大のウィークポイントでもあります。

一方で名古屋は、いろんな戦争が終わった後、震災前、復興計画として清州越しということをして、台地にすべての町を引っ越したので、見ていただいて分かるように、重要な企業の本社の多くはすべて台地上にあるということになります。これだけ様子が違います。

それから、慶長の地震の後、伊達政宗は津波が来なかったところに波切不動や波分不動を作り、それよりも海側には住むなよというメッセージを残しました。奥州街道も津波にやられないところに造られることができ、その結果、今回も盛岡は無傷で、岩手県庁にいらっしゃる方々はみな津波から救われていたということでもあるわけであります。

実は、東海道も津波危険度の低いところにもともと造りましたが、現代人はこのことを忘れてしまい、津波危険度の高いところに道路や鉄道を造ることになってしまいました。そして、岩手の方々は3度の津波に見舞われているので、「津波てんでんこ」というメッセージを残しました。そういう「津波てんでんこ」と同じようなメッセージを私たちの地域でどれだけちゃんと残せているか、それが今問われていることでもあります。

それから、建物の被害が少なかった理由はとっても単純です。東北では、この30年間でメチャクチャたくさん地震が起きたから、壊れやすい建物は壊れた後でありますから、安全な建物しか残っていなかったためのように思います。

一方で、私たちの地域は60年間揺れていませんので、耐震性のない建物が沢山残っているということでもあります。そして、これが戦前、戦後の様子の地震の後です。これを見ていただいて、なぜ戦争に突入していったかということが見事に分かりました。国内総生産の4割のお金を関東大震災一つで失ってしまったわけです。それが戦争を始める最大の原因であります。戦争が終わった最大の原因、それは東南海地震が起きて、軍需産業が壊滅的にダメージを受けたからであります。この三重県にあった、石原産業のところにあった世界一高い煙突もこの時に倒れて壊れています。それは、今風に言えば長周期地震動に

よって超高層建物のようなものが壊れたということでもあります。そういうふうに、私たちは学ぼうと思えば学べるものはいっぱいあります。

そして、三陸の方々はこんなメッセージを残されました、姉吉地区にはこんな石碑が残っています。昭和の三陸地震津波で4人しか生き残らなかったこの地区では、「高き住居(すまい)は児孫(じそん)の和楽 想へ惨禍の大津波 此処より下に家を建てるな」と、こんな石碑を建てて、今回は一人の犠牲者も出さなかったということで、こういう成功体験を私たちはたくさん学び取って、我々のところで犠牲者を1人でも減らすような努力をする必要がございます。

残念ながら、この80年、90年の間に、どんどん首都に1極集中してしまいました。ですが、この場所は、今、次なる地震が切迫しております。再びマグニチュード9クラスの地震が襲うかも知れない。そして、先々週にはこんな情報まで出てきました。「これから4年間でマグニチュード7クラスの地震が70%」なんて記事も出てき始めているわけでもあります。このままの首都では日本が壊れてしまいます。少しでも首都を小さくすることが必要です。

そのためには、三重も含めて、この東海地域がもっともっと頑張っ、首都にあるもののある部分をちゃんとこちらに移転させるという努力を私たちがし、同時にそういった施設を確実に守ってあげられるような対策を自らしていくということをしないと、この国自身が持たないんだということ、我々は考えていきたいと思えます。

我々の今の社会は、最も危険な埋立地に1番大事な発電所や工場を造っています。残念ながら、私たちが持っている堤防は、伊勢湾台風の後の突貫工事で造ったものであって、そんなに耐震的に完璧であるはずはないはずであります。ですが、財政難なので直せない、そのことについて正直になかなか言いにくい状況でございます。そして、三重から愛知にかけては日本1広大な海拔ゼロメートル地帯があります。本当にそういうところを宅地として使うべきなのか。それともこれから食糧自給率がどんどん下がる日本では、ちゃんと農業ができるように転換していくということを考えるべきなのか。そして、電気がなければ生きていけないような高い建物を本当に使い続けることがいいことなのかどうか、そういったことを真剣に考える時期が近づいてきているように思います。

残念ながら、南海トラフでも巨大地震は確実に起きます。その地震の犠牲者は、人口が10倍住んでいるわけですし、物で言えば10倍以上あるわけです。これは本当に大変です。そして、地震が起きる場所は圧倒的に我々に近い場所で起きるわけですから、最初に強烈な揺れが来ます。これは東北の揺れとは比べ物になりません。そして、そこに膨大な数の家があるわけですから、壊れて燃えます。そして近くで起きる地震ですから、すぐに津波が来ます。ということは、東北地方よりずっと大変です。阪神・淡路大震災と関東大震災と東日本大震災が同時にやってくることになります。そして、そこには10倍の人と物があります。ですが、残念ながら私たちの地域は、三陸の人たちほど意識が高くありません。このままでは国として回復不可能になってしまうということでございます。

そして、ここには日本国民の3分の1が住んでいて、製造品出荷額の半分がここから出されています。ガソリンの40~45%が作られているわけです。ということは、これはここだけの問題ではなくて、ここがこけたら東北の人たちはガソリンも来ない、何も来ないということになるわけです。私たちがすべきことは、今回の震災を本当にしっかり学び取り、自分たちの問題だと捉え、必死になってこれから頑張ることだと思われます。

年末、12月27日に内閣府の検討会からこんな震源のモデルが公表されました。三重県は、全部震源域の上であります。覚悟が必要であります。覚悟というのは、頑張っ生きて残るために、やれる限りのことをしっかりやる。そして、やれる限りやったから、ダメだった時は納得して死んでいけるということでもあります。やりもしないで納得はできません。やれる限りはやって、僕は死んでいきたいなと思っております。

そして、この社会を安寧に保つためには、衣(医)・食(職)・住・育、これが継続できなければ大混乱になって、再び戦争をしでかさないと思えないような状況にもあるわけです。こんなに人間の力が弱っています。ですから、何が何でもしっかり備えるということが必要であります。そして、できれば、叱られるんですが、できれば子どもたちには犠牲になってほしくないわけです。我々の年代以上は十分人生をエンジョイしましたから、ある程度仕方がないとは思いますが、でも、子どもたちまで道連れにわけにはいきません。子どもた

ちにはぜひ安全な場所に住むようにというメッセージをちゃんと伝えてあげたいと思います。

子どもたちにはさまざまな人生の節目があります。そういった時に、引っ越す時にはちゃんと安全な場所に住みなさいよと、そういうような土地利用の問題にはやっぱり踏み込まざるを得ないと思います。

それから、行政には力がないということを白状し、自分の身は自分で守ってもらうようにするしかございません。行政の力を増すのであれば、税金は今の倍以上取らなくては無理ですよということもちゃんと言う必要があると思います。

そして、我々全員が意識を高め、自ら逃げ、そして互いに助け合って、それぞれの地域を復興していく必要があるわけです。被災者面はできない災害で、被災者ではなくて、自分たちが復興の担い手とならないといけないんだということを、これは地震が来る前にしっかりお伝えしておくことが必要なんじゃないかというふうに思っております。

ぜひ皆様、三重県を代表する方々でありますから、お聞きはしませんが、もしも今日、ご自宅の電気冷蔵庫すら固定していない方がいらっしまったとしたら、それはとても恥ずかしいことだとお感じいただいて、市民の人たちの代表である率先市民として、必ず次の土・日までにはご自宅の家具を全部留めていただくようにしていただけるとよいかと思えます。

以上であります。どうもありがとうございました。